



市大キャラクター  
『ヨッチー』

## 「まちなか市役所」としての新市庁舎活用プランを 学生が横浜市へ提案

横浜市立大学は、新市庁舎を多くの市民が訪れ活用し、まちなかの賑わいや新しい創造拠点となるためのプラン（コンセプト「まちなか市役所」※）を提案する発表会を1月27日（金）に本学の金沢八景キャンパスで行います。

この取組は、国際総合科学部国際都市学系まちづくりコース2年生の必修科目「まちづくり実習Ⅰ」後半課題として、横浜市新市庁舎の低層部のオープンスペースおよび関内～馬車道エリアを対象に、エリアマネジメントと中心市街地活性化の観点から、学生が活用プランをまとめたものです。

横浜市は、平成32年の市庁舎移転に向けて、28年8月に新市庁舎の基本設計を終え、今まさに、実施設計を行っています。こうした中、本学学生は、課題の設定、基礎資料提供、市庁舎見学、中間発表でのアドバイス、担当部署へのヒアリングなど、市にさまざまな協力をいただき、プランづくりを進めてきました。

当日は学生38名6チームによるプレゼンテーションを行い、横浜市の担当者より講評・審査いただきます。



新市庁舎外観デザインイメージ



1階アトリウム内観イメージ

※「まちなか市役所」とは、市役所が単なる庁舎としてではなく、市民にとって垣根が低い場所としてまちにオープンに開かれることで、市民が集い、憩い、そして、職員と共に市庁舎という場を存分に活かしながら、既に存在する周辺エリアのヒト・コト・モノと一緒に創造的な活動を生み出すことを意図したコンセプトです。

### 【概要】

日時 平成29年1月27日（金）15:00～17:40（開場は14:30～）

場所 横浜市立大学金沢八景キャンパス YCUスクエア1F ピオニーホール（横浜市金沢区瀬戸22-2）

参加者（予定） 管理課、都市デザイン室、市民活動支援課

プログラム（予定）

15:00～15:10 今回の課題とねらい（横浜市立大学国際総合科学部まちづくりコース准教授 三輪律江）

15:10～15:20 新市庁舎整備事業とまちづくりについて（横浜市総務局新市庁舎整備担当課長 大津豪）

15:20～17:00 学生発表

発表テーマ：「学生（若者）」「子ども・子育て」「市民活動」「情報発信」「食・遊」

17:10～17:35 講評および審査発表

17:35～17:40 まとめ

※取材をご希望の方は、前日までに以下問い合わせ先にご連絡ください。

YCU  
横浜市立大学

お問い合わせ先	
研究基盤課長	竹内 紀充 Tel 045-787-2019

（裏面あり）

## 参考

### まちづくり実習Ⅰ 後半課題

## 『“まちなか市役所”への挑戦ーオープンパブリックと市民協働の観点から考える』

#### ◆目的

横浜市市庁舎が現場所から馬車道へ移動することに伴い新しい市役所への期待が高まりつつある。新しい点として出現する新市庁舎から周辺エリアにどう波及させて浸透させていくか、特に次の世代の若者にとって馴染みの薄い“市役所”という場を使いこなすにはどんな仕掛けがあるか、370万都市の市役所として機能すべき部分はなにか等について、関内～馬車道エリアのエリアマネジメントと中心市街地活性の観点からも考えた“まちなか市役所”を提案する。

#### ◆課題

課題1（グループワーク）現地周辺のヒト動線・モノ・コト資源リサーチ

課題2（個人ワーク）他都市の市役所（と周辺）事例について調べる

課題3（グループワーク）課題1・2を踏まえ、まちなか市役所となるために必要なモノ・ヒト・コトについてのアイデアを出す

チーム（人数）	提案の概要
学生（若者）班 （6名）	高校生や大学生など若者が何度も訪れたいくなる仕掛けとして、「はまなび」や学生が企業・市民と交流するイベント等を提案
子ども・子育て班 （6名）	既存の子育て支援拠点でのリサーチをもとに、観光客の利用も想定した子育て情報の提供や子どもの一時預かりサービス等を提案
市民活動班 （6名）	市民活動団体や横浜をフィールドに活動する大学講師とともに市民活動を学び体験へ踏み出すきっかけとなる「まちなか大学」を提案
情報発信班 （8名）	市役所を身近に感じるための「市役所コンシェルジュ」と、市内18区の特徴や魅力を発信する「アンテナショップ（ブース）」を提案
食・遊班① （4名）	こだわりのコーヒーといっぱいの情報を提供し、明治～大正期の横浜にタイムスリップした感覚を味わえるカフェを提案
食・遊班② （8名）	水辺空間に着目し、健康・食育をコンセプトとした「水際マルシェ」として様々に楽しめる空間づくりを提案



市庁舎見学（平成28年11月）



中間発表のようす